

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2008 Winter

1月20日発行 No17

万雷の拍手鳴りやまず 第8回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞贈呈式



写真前列左より、受賞された山田氏令夫人、山田昭義氏、丸山氏令夫人、丸山一郎氏、西澤心氏、西澤氏令夫人
後列左より、村松春夫ヤマト運輸労働組合中央執行委員長、瀬戸薫ヤマトホールディングス株式会社代表取締役社長、山崎篤ヤマト福祉財団理事長、木川眞ヤマト運輸株式会社社長

ヤマト運輸が第5回 企業フィランソロピー大賞
「特別賞・社会共生賞」を受賞

障がい者の自立と共生社会の実現に向けた活動に感謝
きょうされん全国大会で財団が感謝状をいただきました

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

配達中に「助けて…」の声か
地域とのつながりが生んだ人命救助

北海道のサンタさん
玉手博章さんから、豊かな大地の贈りものが届きました

YWF TOPICS

万雷の拍手鳴りやまず

第8回ヤマト福祉財団

小倉昌男賞 贈呈式

会場には小倉昌男氏の
写真も飾られました



渡辺修・財団法人日本環境協会理事長より選考委員会を代表しての講評



毎年、障害者週間に行われる「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」の贈呈式が昨年12月5日、東京・丸の内内の日本工業倶楽部で行われました。「小倉昌男賞」は、障がい者の雇用促進、仕事づくりに尽力され、働く喜びと生きがいをもたらしている人の功績を讃えるものです。

多数公募の中から選考の結果、第8回小倉昌男賞に決定したのは、障がい当事者として1960年代から都市のバリアフリーに関する活動を始め、現在、名古屋の社会福祉法人「AJU自立の家」の常務理事を務める山田昭義さん。アイデアあふれる取り組みで、レストラン事業やホテル事業、産直米を扱う米店などを次々と展開している社会福祉法人「まいづる福祉会・ワークシヨップほのぼの屋」の西澤心さんです。

また今回は日本の障がい者の権利や地位向上に貢献し、とりわけ就労支援

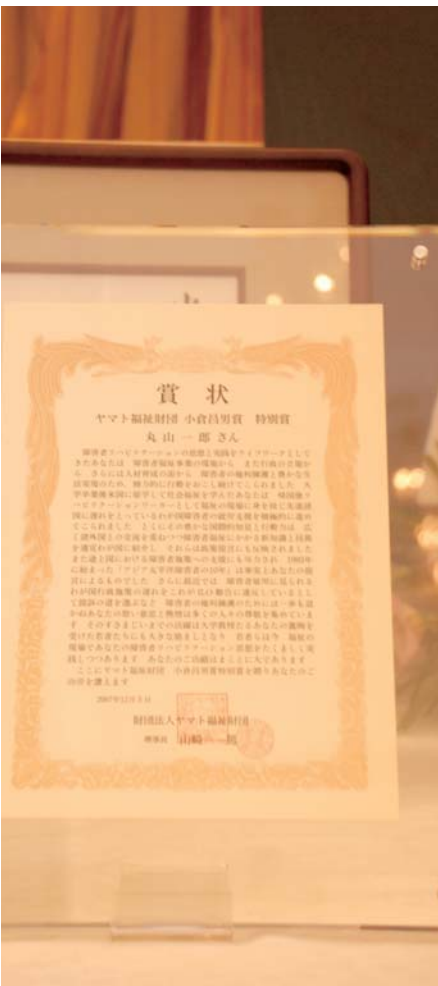


小倉昌男賞の山田昭義さん



山田昭義さんを推薦された児島美都子・東京福祉大学大学院教授





小倉昌男賞特別賞の丸山一郎さん



丸山一郎さんを推薦された
佐藤進・埼玉県立大学学長



山崎篤やマト福祉財団理事長
よりあいさつ



の分野で大きな役割を果たした埼玉県立大学教授・丸山一郎さんに特別賞が贈られました。

各受賞者には、雨宮淳氏（日本芸術院会員）の手による、母子ブロンズ像「愛」を正賞として授与され、副賞として賞金100万円の目録が贈られました。また、令夫人には大きな花束が山崎理事長より手渡されました。

あいさつのなかで山崎理事長は「一昨年、前理事長は80年の生涯を閉じられました。障がい者の自立にはまず、利用者に適正な賃金が支払われることが第一と考え、全国各地を説いて回りました。今後も財団はその志を継ぎ、障がい者の幸せのために精一杯努力してまいります」とあらためて決意を語りました。

また、俳人でもある花田春兆さん（日本障害者協議会顧問）は、「今回は受賞者のみなさんを、以前から知っているだけにハタと困った」とユーモアを交えて挨拶。恒例となったお祝いの句がそれぞれに贈られ、満場の喝采とともに式を大いに盛り上げました。



西澤心さんを推薦された尾田直樹・(社福)
京都府社会福祉協議会事務局次長



小倉昌男賞の西澤心さん



ご祝辞を いただきました

厚生労働省社会・援護局 障害保険福祉部長、中村吉夫氏の代理で出席した、同社会・援護局 藤木則夫総務課長。障がいのある方々や高齢者、あるいは子育てにある方々が〈ふつうに暮らせる幸せ〉こそが福祉であり、受賞者のみなさんはまさにその最前線でご活躍されたとお祝いの言葉をのべました



バリアフリー運動で、同じ車いすを利用する仲間として知り合った山田さんとの出会いや、スモン病患者の職場探しで20代の丸山さんと奔走した思い出話などを語った勝又和夫・日本障害者協議会代表



お祝いの俳句



俳人の花田春兆さんより、
3名の受賞者に
それぞれお祝いの俳句が
贈られました。

■山田昭義さんへの句
暖炉築く自ら寒さ知るゆえに

自身が障がい者であるために障がい者の辛さ、きびしさを誰よりも実感している。だからみんなが暖まれる施設作り、仕事作りに情熱を傾けている。

■西澤 心さんへの句
世を淨む箒作りも年用意

新年のきちんと箒目のたった庭先は清々しさ、新鮮さを感じる。世の中の不条理もクリアしてほしいものだ。そんな気持ちで新年を迎える準備をしている。

■丸山一郎さんへの句
常に先駆け白息豊かに走り抜く

マラソンか、駅伝か、トップで駆け抜けたランナーの息づかいがまっ白で豊かな呼吸だ。仕事でもいつも先頭を全速力で走り続け、いくつもの立派な業績を残された。



小倉イズムを全国に広めようと会場のみなさんに訴えた、炭谷茂・財団法人休暇村協会理事長



「障がい者の自立を願う、それぞれの想いをひしひしと感じました。ヤマトグループはその使命として小倉昌男前理事長の意志を継ぎ、障がいのある方に広く職域を提供していきたい」と瀬戸薫・ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役社長



「歴代の受賞者は、本物の熱意に加え、判断力、行動力があり、学び上手、人とのつながり上手という共通点があって、そのうえ一癖も二癖もある（笑）」とユーモアある語り口で、受賞者の功績を讃えた西村直・きょうされん理事長

「小倉昌男賞は第8回を迎え、その役割が浸透しつつあることに天国の前理事長も微笑んでいるはず」と祝賀会で乾杯の発声をする、青木大祐・安田倉庫株式会社相談役



第1回ヤマト福祉財団賞受賞者として、小倉前理事長が両手を握って「よくやったね」と言葉をかけていただいたと振り返る伊藤静美・麦の郷理事

村松春夫・ヤマト運輸労働組合中央執行委員長による一本締めで閉会



藤井克徳・きょうされん常務理事（左）炭谷茂・財団法人休暇村協会理事長



特別賞の丸山一郎さん、藤井克徳・きょうされん常務理事（右）



受賞された西澤心さん（右）、木川眞・ヤマト運輸代表取締役社長



伊藤静美・麦の郷理事（右）、山崎理事長



受賞された山田昭義さん（右）、山崎理事長

受賞者のことば

第8回「ヤマト福祉財団 小倉昌男賞」



■プロフィール

脊髄損傷による四肢麻痺の障がい当事者として、1968年より「愛知県重度障害者の生活をよくする会」を創設し、街のバリアフリーに取り組む。その後、重度障がい者の働く場「わだちコンピュータハウス」を設立し、月平均工賃11万円を達成するほか、「障がい者の下宿屋」というコンセプトで、重度障がい者が市民とともに、地域社会の中で豊かな生活創造を実現する「AJU自立の家」を興すなど活発な活動をつづけている。

Yamada Akiyoshi

山田昭義さん

社会福祉法人「AJU自立の家」常務理事



楽しくなければ福祉じゃない

じつは先日、事務所に泥棒が入りかなりの被害に遭いました。ひどいことをする輩もいるものです。しかし捨てる神あれば拾う神あり。立派な賞にまさか選ばれるとは、という気持ちですが、副賞である賞金に目が眩んで、今日は贈呈式に参りました(笑)。

小倉昌男前理事長とは直接のご面識はありませんが、やはり月給10万円を目指すことには大きな意味があります。現在、70余年の歴史を持つ多治見修道院ワインを引き継ぎ、知的障がい者の働く場として新たにぶどう栽培とワインの製造・販売に取り組んでいます。こちらは今のところ、月5万円の工賃という段階ですので、これを軌道に乗せ、ワインの事業でも年間所得100万円を達成して数年後、もう一度ちゃんとした形で二度目の賞をいただきに来たいと思っています! 「楽しくなければ福祉じゃない」を合言葉にこれからも頑張ります。

「ヤマト福祉財団 小倉昌男賞 特別賞」

小倉イズムで警鐘を鳴らす

小倉前理事長はたいへん厳しい方でもありましたから、私ごとがお眼鏡に叶うようなことはないと思っていましたが、今日はみなさんから「小倉さんも喜んでいてに違いない」と言っていたので、うれしく思っております。

受賞に時を合わせたかのように、日本の障がい者政策が「障害者の職業リハビリテーション及び雇用に関する条約」違反の状態にあるとしたILOへの申し立てが、正式に受理されました。本来は国の内部で解決を図るべき問題ですが、一向に変わることなく50年近くが経とうとしています。もうこれ以上待てません。目の黒いうちにと決断して、提訴に踏み切りました。これから審査となりますが結果はまだ分かりません。ただ、問題があることだけは明確に心得たと思っています。しかしこれは国だけが悪いのではなく、国民一人ひとりの問題でもあります。なにものにも怯まない小倉イズムで警鐘を鳴らし続けたいと思います。

■プロフィール

慶應義塾大学工学部管理工学科卒業。サンフランシスコ大学リハビリテーション管理コース修了。1964年東京オリンピック時に開催されたパラリンピックに通訳ボランティアとして参加し、障がい者を取り巻く環境の違いに衝撃を受ける。以来、リハビリテーションワーカー、旧厚生省・障害福祉専門官、「アジア太平洋障害者の十年推進NGO会議」事務局長など、さまざまな立ち位置から障がい者の就労支援に精力を注いでいる。



埼玉県立大学 保健医療福祉学部
社会福祉学科 教授



丸山一郎さん

Maruyama Ichiro

Nishizawa Shin

西澤 心さん

社会福祉法人「まいづる福祉会」
ワークショップほのぼの屋 施設長



■プロフィール

1987年、小規模作業所に指導員として就職。持ち前のアイデアを駆使して、障がい者の所得確保に精力的に取り組んできた。2002年には、本格的なフレンチレストラン「ほのぼの屋」をオープン。年間1万人以上の来客、年100組のプライダルを誇り、利用者に月10万円以上の所得を支給している。また、自立支援法の利用料分を捕う新しい収入源として、産直米専門の米店、オーベルジュ(小ホテル)もオープンさせた。

メンバーの願いを実現する

嬉しいというよりも、受賞された他の諸先輩方に比べると、自分はまだまだ未熟で…。むしろメンバー全員で長年コツコツと積み重ねてきた成果に対して、このような評価をいただけたことを、ありがたいと同時に励みに感じています。

アイデア豊富と評されますが、自分たちの基本は「メンバーさんの願い」をいかに実現していくか——、それだけです。メンバーがお店屋さんをやりたいと言えば、ではそのために何をしたらと考えます。そして良い意味で、リスクや不安に囚われず楽観的に行動に移してきました。それが幸いにして今のいい結果を生んできたのだと思います。私たちができるのは、メンバーの方々伸びていくための土壌作りです。花を咲かせ実をつけるのはあくまで利用者自身。ただ、日本はこの土壌が痩せてしまっているのです。これからも精一杯、鍬を振るって耕していきます。

ヤマト運輸が 第5回企業フィランソロピー大賞 「特別賞・社会共生賞」を受賞

日本フィランソロピー協会(東京・千代田区、高橋陽子理事長)は、昨年12月、社会貢献に取り組む企業を表彰する「企業フィランソロピー大賞」、2007年度の受賞企業を発表。その特別賞である社会共生賞を、ヤマト運輸が受賞しました。受賞の対象となった「障がい者によるクロネコメール便配達事業」は、メール便配達事業を通じて障がい者雇用の拡大と就労の場を提供し、地域との共生を支援する事を目的に2004年から財団と協力して進めてきた事業です。



▲クロネコメイトからヤマト運輸の契約社員に。



▲日本全国各地で、障がい者のみなさんがクロネコメイトとして活躍しています。



■「企業フィランソロピー大賞」とは？

「社団法人 日本フィランソロピー協会」はフィランソロピーを行政依存のスタイルから脱却させ、一般市民や企業が自ら主体性をもって参加、推進できるように、そして企業文化として根付かせていくようにと、さまざまな活動を行っています。

企業フィランソロピー大賞は、2003年に創設されたものです。この賞は「経営だけでなく、環境や社会の視点から、本業を活かしていることを条件に、社会性・先駆性・波及性に富む行動をしている企業を顕彰する」ことを主旨としています。「障がい者によるクロネコメール便配達事業」が「特別賞・社会共生賞」に選ばれた理由として、次のような評価をいただきました。

■「受賞の理由」は？

(フィランソロピー協会より)

●賞の目的：本業を通じた社会貢献活動

を顕彰し、21世紀の新しい企業行動モデルを広く世に示すことで、CSR経営の推進を目指す。

●活動内容：障がい者によるクロネコメール便配達

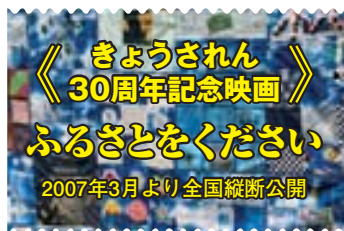
●贈呈理由：障害者に就業機会を提供し、仕事をすることの喜びを与えていると共に、仕事ができることによる生活への自信を持つ機会を提供し、人生を希望のあるものに変えている。さらに、地域の人たちが彼らと日常的に接し、彼らの働く姿に身近に触れることで、「共に生きる」という意味を現実のものとして実感できる機会を提供している功績は大きい。また、このプロジェクトは障害者と健常者を差別しない、本業に取り組みされた社会貢献のありべき姿を示しており、一つのビジネスモデルを示したものであるといえる。「すべての人にやさしい企業」を標榜する同社の、共生哲学から生み出された活動として高く評価できる。

贈呈式は2月28日に、プレスセンター(東京・千代田区)にて行われます。

ヤマト運輸株式会社
本業を活かし自立支援
障がい者によるクロネコメ

▲日本フィランソロピー協会が発刊する「月刊フィランソロピー」に当事業が紹介されました。

※フィランソロピーとは、ギリシャ語のフィラン=愛とアンソロpos=人類を合成した造語、直訳すると人類愛、慈善となり、日本では「社会貢献」という意味で使われています



“障がいがある人が地域で当たり前
に生きていくこと”をテーマに、精
神障がいと共同作業所を取り巻く
現状にスポットライトを当てた、心
に沁みるヒューマン・ドラマです。



▲麦の郷の作業所「ラ
テール」でのロケ風景、
中央が所長役の藤田
弓子さん



◀紀ノ川を見下ろす百
合山頂上付近でラスト
シーンの撮影



感謝状を受けた人た
ちを代表してあいさ
つする山崎理事長



きょうされんの第30回全国大会が昨年12月21日から東京ビ
ッグサイトで4000名の参加者のもとに開催され、この
席上、財団に今までの活動の実績に対する感謝状が贈られ
ました。



高橋洋子さんとぎずな会によるウェ
ルカムコンサートで大会がスタート



脚本のジェームズ・三木氏をはじめ、出演者が駆けつけた、30周年記念映画
「ふるさとをください」の舞台あいさつ

障がい者の自立と共生社会の実現に向けた 活動に感謝 きょうされん全国大会で財団が感謝状をいただきました

「きょうされん」は障がいのある人
たちがそれぞれの地域で働く・活動す
る・生活することを応援する共同作業
所の全国組織です。1977年から数
えて30年目となる節目の大会で、財団
をはじめ多くの企業・団体に感謝状が
贈呈されました。

財団については、パワーアップセミ

ナーを通じて小規模
作業所の工賃アップ
に貢献したことに対
し、贈られたもので
す。

感謝状を贈られた
人たちを代表して山
崎理事長は、小倉昌
男前理事長が13年前
の阪神・淡路大震災
の折に、被災された
障がい者の方を憂い
て、きょうされんに
寄付をしたことに端
を発し、その後、障
がい者の給与の実態
を知るに至って覚え
た憤りから、障がい
者の自立には経済力

は不可欠との信念で、「一万円からの脱
却」を合言葉に、きょうされんと協力
して〈小規模作業所パワーアップセミ
ナー〉を開催。自ら全国を回り、経営
のノウハウについて説いたと語りまし
た。最後に、「障害者権利条約」が20
06年の国連で採択された日が、奇し
くも小倉氏の誕生日であったことに触



▲麦の郷のクリーニング工場でのロケ風景、メンバーが撮影に協力

あらすじ

片倉千草は大学院を出て県庁に就職。父の雄二郎は商店を営んでいる。ある日、町はずれにクリーニングとパン製造をする不思議な集団が現われた。それは共同生活を目指す障がい者たちなのだが、町内会役員の父は反対運動に名を連ねる。そんな折、千草は共同作業所の若い職員、内藤明彦と知り合う。彼を通して障がい者の実態を知り、その活動に共感する千草だが、父・雄二郎と衝突するようになってしまふ。作業所ではそのころ、メンバーの中から二組のカップルが生まれていた。親たちは二人の結婚に反対なのだが、明彦は一人をゴールインさせようと応援している。

一方、明彦と千草も互いの気持ちを確認し、結婚を申し込む明彦。だが彼と父との間で深刻な板挟みにあつた千草はついに家を飛びだしてしまう。

果たして、親子の対立の行方は？ そして、メンバーの結婚式は無事成功するのか？

見どころ

●和歌山の「麦の郷」をモデルにしたこの映画で、脚本を執筆したジェームス三木は、あえて作業所の側からの視点ではなく、周囲の住人の視点からシナリオを練り上げ、笑って泣ける物語のなかに、障がい者福祉の問題点を織り込みました。これまでも精神障がいを描いた映像作品はありましたが、そこに至るものはあっても、克服し立ち直っていく姿を描く本作はこれまでにないものです。

●撮影は、麦の郷・地元住民・和歌山県の全面協力の下に進められました。主要スタッフも事前に麦の郷に通い、難しい役どころに正面から挑むとともに、麦の郷のメンバーにも随所に出演。ありのままをスクリーンに焼きつけ、観た人の心に大切な何かを灯す、ハートウォーミングな95分に仕上がっています。

▶工場での撮影を終えて、俳優とロケに参加した入所者と記念写真



▲長年の病院生活から抜け出て、メンバー同士のゴールインを祝うシーン。映画ではこのあとの急展開が・・・

▶私の役を藤田弓子さんが演じられるなんて!! 撮影の合間に藤田弓子さん(右)と伊藤静美さん



■モデルとなった「麦の郷」理事・伊藤静美さん

撮影中は端で見ていただけで熱が入りました。これまでのことがよぎって涙がぼろぼろ出てね。役者さんの演技はそれほど素晴らしい! 一人でも多くの方に観ていただいて、何か心に残るものがあれば有り難いです。

■「麦の郷」とは・・・

社会福祉法人一麦会・通称「麦の郷」は、1977年にその前身を設立。95年には日本初の精神障害者福祉工場を立ち上げた。現在は地元自治会と協力して「福祉の街づくり」の拠点となり、精神障がい者、障がい乳幼児、不登校児、高齢者の問題にとりくむ総合リハビリテーション施設を目指す。麦の郷ではこれまで12組のメンバーが結婚している。麦の郷前理事長の伊藤静美さんは、第1回ヤマト福祉財団賞を受賞。

【作品DATA】

映画「ふるさとをください」製作委員会
(きょうさん／和歌山県共同作業所連絡会／(社福)一麦会／(有)イメージ・サテライト)

▶冨永憲治監督作品 脚本:ジェームス三木 音楽:小六禮次郎

▶キャスト:大路恵美 ベンガル／烏丸せつこ 石井めぐみ 中山仁／藤田弓子

▶上映時間 1時間35分 カラー

2008年3月より全国縦断上映(各地の共同作業所の主催による上映会を開催の予定)

●お問合せ●

きょうさん事務局 (03-5385-2223 担当:川久保・谷岸)

記念映画の紹介に特別ゲストも

この日、歌手の高橋洋子さんや東京の利用者の集まりである「きずな会」によるウェルカム・コンサートからスタートした全国大会では、基調報告や柔道の金メダリスト・山下泰裕さんによる記念講演のほか、きょうさん30周年記念映画「ふるさとをください」を紹介する特別企画も催されました。

映画は、地元住民に葛藤を引きおこしながらも共同作業所が地域に受け入れられていく様子を描いたドラマで、第1回ヤマト福祉財団賞を受賞された伊藤静美さんたちの「麦の郷」がそのモデルになっています。

ステージには、ヒロインを演じた大路恵美さんや、ベンガルさん、石井めぐみさんほか出演陣に加え、脚本を執筆したジェームス三木氏も登場。華を添えました。



東京ビッグサイトに4000人以上が集結

れ、すこ
しずつだ
が社会は
変わりつ
つある。
多くの困
難がまだ
立ちはだ
かっているという現実はあるが、小倉
前理事長の志を受け継ぎ、「慌てず・焦
らず・諦めず」の精神で、障がい者が
いきいきと働ける社会の実現に努力す
ると、あいさつを結びました。

今日配達するメール便を受け取る上路さん。
この後、みんなで手分けして地図に配達先を
マーキングし、ルートマップを作っていきます。
その手際によさ、チームワークにはビッ
クリ。



この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

配達中に「助けて…」の声が 地域とのつながりが生んだ人命救助

盛岡駅から車で15分ほど。盛岡市に隣接する滝沢ニュータウンの一角に、
精神障がい施設「りんりん舎」がある。2006年11月からメール便配達事業を始め、
持ち前の責任感と抜群のチームワークで仕事をするなか、成長していったメイトさんたち。
そんな彼らが、的確な判断で「人命救助」を行ったのは、メール便配達のさなかのことでした。

「助けて、助けて……」

降りしきる雪のなか、メール便
を配達していた上路勝人さんと
佐藤和夫さんが、アパートの1階の
通路で壁越しに弱々しい声を聞いた
のは、07年2月1日のこと。

ふたりが吐き出しのガラス戸を
開けて部屋に入ると、70歳すぎの
男性がベッドに横になっていた。

「ベッドの脇に杖が置いてあつて、歩
くのが困難な方のようにでした。聞
くと、1週間もこうしているとの
ことでした（上路さん）

上路さんが「どなたかお世話に
なっている方は？」と尋ねたが、返
事がない。「近くに住民生委員
の方はどなたですか？」と聞くと
名前を言いつつ方角を指さしたの
で、上路さんがそのお宅を探しに
いき、佐藤さんが付き添った。

かけつけた民生委員が佐藤さ
んの携帯電話で役場に連絡。

「あとは近所の方たちまかせ、私
たちはメール便の配達に戻りまし
た」（佐藤さん）

1週間もベッドの上で身動きが
できなくなっていた独り暮らしの

高齢者。もし2人が気づかなけれ
ば、本当に孤独死してしまってい
たかもしれない。

配達後に2人の報告を聞いた、
りんりん舎の利府みちる所長はこ
う話します。

「その人の暮らしぶりを見て、的
確な判断をしていることに驚きま
した。」自分も地域のなかで民生
委員の方にお世話になっているの
で、「と言っていたので、地域のなか
で支援を受けながら生活している
ことに、いつも感謝しながら暮ら
しているんですね。すごく感謝
しました」

それはメール便配達という、地
域とのつながり、人とのつながり
のある仕事を通じて、彼らが成長
してきたことの証でした。

●岩手主管支店 滝沢西メール便センター

面積40.2km²／人口21,213人／世帯数7,275世帯

●りんりん舎（岩手県岩手郡滝沢村）

就労継続支援事業所（利用者15名）
社会福祉法人一隅を照らす会 りんりん舎
2006年11月メール便配達開始。クロネコメイトは5名。
メール便配達のほか、焙煎コーヒー、パン、クッキーの販売など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 押尾

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

e-mail y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp



「エリアを調整することで、より多くの障がい者が地域で働けるんです」と、右から齋藤哲也スーパーバイザー、熊上猛メール便課長、平井忠東北支部事務長。



配達中にすれ違った遠山センター長と。ヤマト運輸のドライバーは、クロネコメイトさんにとって良きアドバイザーであり、同じヤマトの仲間なのです。

チームワークで不安を克服。 表情も明るくなりました

りんりん舎がメール便配達を始めたのは、06年11月。実は06年7月に施設がオープンした当初から、メール便配達を事業メニューに入れていたといいます。

「ヤマト福祉財団のパワーアップセミナーでメール便配達事業を知り、いいな」と思ったんです。精神の方は力はあるけれど、体調が一定しないので、なかなか1人で責任を負うのが難しい。でも、グループで請け負えるのならピツ

タリだと」(利府さん)

4人でスタートし、いまは佐藤さん、上路さんのほか、岩間宏さん、伊藤輝男さん、松本光夫さんの5人がメール便配達に携わっています。

岩間さんはそれまでに10年間、冬季の郵便配達の経験があり、「メール便配達をやるなら」と、りんりん舎の利用者になりました。最初は不安を感じる人も多かったのですが、

「経験者の岩間さんが積極的に”大丈夫だよ”と声をかけてくれて、みんなも”できるかな”と思うようになっていきました。やはり仲間の声というのは重いですね」(利府さん)

とはいえ、岩間さんひとりがいリーダー役だったわけではありませんが。上路さんは機械に強く、佐藤さん、伊藤さんは地域に詳しい。それぞれの力がうまく融合する形で、メール便配達への取り組みが始まりました。

最初はバーコードの入力がうまくいかなかったり、配達先がわからなくなったりして、滝沢西メール便センターに問い合わせることも多かったのですが、いまではすっかり慣れた様子。

「レベルがアップして、もうすべて任せて大丈夫。最初の頃は緊張していたようですが、いまは表情もすごく明るくなりました」と滝沢西センターの遠山義徳センター長。

利府さんもその変化を実感し

ています。

「最初は施設もできたばかりで、利用者さん同士も知らない人が多かった。でも、仕事を通して信頼関係ができ、それと共に明るくなっていたのだと思います」

配達を始めて1か月後に自分の制服が届いたときは、みんな大喜び。「有名な会社の制服が着られる」(佐藤さん)という誇りとともに、周囲の人に不審がられることもなく、自信をもって配達できるようになりました。

メイトさんの挨拶が ヤマトのイメージアップに

また、佐藤さんは「責任があるのでも、いつも緊張しながら、確認しながらやっています」と言います。配達中にすれ違った人に挨拶し、配達先の玄関に人がいれば、必ず「メール便です」と挨拶をして手渡す。そんなりんりん舎のメイトさんたちの仕事ぶりは、ヤマト運輸のイメージアップにもつながっています。



「ドライバーが、配達先の奥様に”施設のメイトさんはきちんと挨拶してくれるのよ”と褒められたそうです。ヤマトの印象をよくしてくれているんですね」と岩手主管支店の熊上猛メール便課長。

また、齋藤哲也スーパーバイザーも、「誤配などのトラブルが少なく、仕事に対する責任感の強さには驚きました」と感心しきり。

これまでは1日30〜40冊の配達でしたが、今回の取材がきっかけで、土曜日でも稼働する体制を組み、取扱量が150冊と3倍増。収入アップにつながっています。

「これをステップにすれば一般就労したい」(伊藤さん)
「夢はヤマトの契約社員になること」(佐藤さん)

冬の寒さが厳しい地域。12月から3月までは、道路が凍結して自転車での配達はできません。それでもやりがいと自信、そして希望を胸に、りんりん舎のメイトさんたちは今日も元気に配達を続けます。

玄関先に人がいるときは、必ず挨拶をしてメール便を直接手渡します。「配達先で“ごろうさま”“ありがとう”と言ってもらえるのが、すごく楽しいです」と岩間さん。

仕事にやりがい

施設・作業所のメイトさんの
報告会を開催しました

財団では3年にわたり障がい者のクロネコ
メール便配達事業を推進してきました。今
では、全国234カ所の施設・作業所で850
名を超えるメイトさんが活躍しています。
そのメイトさん本人によるはじめての報
告会が、障害者週間の12月7日、仙台市で
財団法人ナイスハート基金・東北福祉大学
との共催で行われました。



3年目を迎えたスワン
カフェ＆ベーカリー
時計台店が話題になり
ました。

北海道新聞 2007年12月26日

「仕事の誇りを感じる」
仙台 障害者が配達体験発表

報告会「私を、待っていてくれる人がいます」

障害者が働いているヤマト運輸のクロネコメール便配達事業の体験報告会が7日、仙台市青葉区の東北福祉大で開かれた。最初に、同大総合福祉学部の阿部一彦教授が「仕事のやりがいや楽しさについて体験を披露する障害者」の報告を聞いた。障害者の地域参加と共生社会」と題して基調講演。障害者が自立して暮らせる社会は、誰もが暮らしやすいまちづくりにつながる」と述べた。続いて、宮城、福島両県の五施設の障害者九人がメール便配達の体験を発表。障害者たちは「責任ある仕事。自転車で転んだこともあり、大変だが頑張っている」「配達した家の人に『ありがとう』と言われるとうれしい。制服を着ていると誇りを感じる」などと話した。事業は障害者の就労支援を目的に、ヤマト運輸とヤマト福祉財団が三年前に開始。全国二百三十の施設（東北七十四施設）の障害者が参加している。

河北新報 2007年12月12日

東北福祉大学
(仙台市)で行わ
れた報告会



07年歳末

ま
ど

3周年



車や人が忙しく行き交う商店の札幌市中央区。障害者が働くパン店「スワンカフェ＆ベーカリー」(中央区北二西二)は、今年四月に開店三周年を迎えた。

記念セールで込み合う中、店員たちは落ち着いて客をさばく。「成長したな」。店長の高田隆一さん(53)は目を細めた。「スワン」は全国チェーンで、創設者の小倉昌男・ヤマト運輸元会長は「福祉と経営の両立」を説いた。月給一万円前後で働く障害者が多い中、約四十人が働く札幌の店舗では、最高約七万円を払う。高田さんも店長に就任した二年前、そんな

理念に胸を打たれた。だが、現実には厳しかった。知的障害などを持つ店員は細かく指示しないとなかなか動けない。パンを焼く鉄板の掃除を覚えるのに半年かかった人もいた。他店との競合で売り上げも伸び悩んだ。

「小倉さんの理念はきれいな事なのさ。自信を失い、店長を辞めようと考えた今春、男性店員の何けな一言で、われに返った。『このパン生地、追加しておきます』」指示待ち型の傾向が特に強かった男性の着実に成長。冷静に見ると、ほ

か店員も作業がずっと手早くなっていた。「悩んでいる間、仲間の成長を見逃していた」。高田さんはすべてを投げたそうとした自分を恥じた。一念発起したのはそれから。新商品のPRチラシを自作し、店頭ではパンを試食してもらう取り組みも始めた。売り上げも徐々に伸び始めた。二十一日には三周年記念パーティーを開いた。この日を心待ちにしていた店員の実績を見、高田さんは感服した。「この仲間たちと働けて本当に良かった」(宇野一征)

年末ニュース アラカルト

宅急便車1万台で 「障害者週間」をPR



全国の宅急便車
1万台に「障害者
週間」のステッ
カーを掲示し、街
の中で「障害者
週間」のPRに協力
しました。



▲障害者週間のステッカー

パワーアップした大塚さん

福祉ベンチャーパートナーズの大塚由紀子さんの活躍ぶりが新聞で紹介されました。大塚さんは財団の「パワーアップセミナー」の講師で、「障がい者の働く場づくり応援プロジェクト」の経営コンサルタントも担当しています。

毎日新聞 2007年12月3日



たい焼き屋を開店した
福祉コンサル会社社長

おつか
大塚

ゆきこ
由紀子さん

月数百万円と好調だ。
バブル時代、大型リソ

常1万円に満たないと言
われる福祉施設や作業所
に通っていた。「おいし
い」と、ほかほかの焼きた
って仕事をしたいと中小

障害者の雇用、起業

もっとつくりだせる！

知的障害や精神障害の
ある従業員4人が働く
「夢ある街のたいやき屋
さん西調布店」(東京都調
布市)を9月末にオープ
ンした。4人は、月収が通
上は予想の1・5倍の

1万円に届かない工賃し
かももらえないのはおかし
い。経営が悪いからだ」
との経営哲学や人間性に
触発され、障害者の経済
的自立支援を目的に現在
の現場からの反発は根強
い。「仕事をさせたら障
害者が不安定になる」無



岡山県出身。日大文理学部卒。ヤマ
ト福祉財団障害者施設向けセミナーの
講師を3年間務めた。福祉ベンチャー
パートナーズ社社長。夫と1男。44歳。

理して働かせることを親
は望んでいない。そんな
言葉を浴びせられたこ
とも数え切れない。異端
を見るような「福祉」の
目。でも「お給料が上が
ってうれしい」「お給料で
旅行にいった」と障害者
に言われるたびに間違っ
ていなかったと感じる。
大塚さんの考えが異端
ではなくなる日、障害者
は福祉から解放されるの
かもしれない。

文・野沢和弘
写真・丸山 博

たまたまひろあき

玉手博章さん

北海道虻田郡ルスツにて玉手農場を経営。平成14年から毎年、財団への寄贈を続けています。



北海道のサンタさん

玉手博章さんから、
豊かな大地の贈りものが
届きました

毎年、冬になると財団に北海道のサンタさんから贈り物が届きます。高級ジャガイモのキタアカリが約4トン。札幌の南西、ルスツで農業を営む玉手博章さんからのプレゼントです。

思いが込められた キタアカリが届く

札幌の南西になだらかな裾野を広げる羊蹄山の麓で農家を営む玉手さんは、財団に「キタアカリ」を毎年のように寄贈してくださいいます。今年は、キタアカリと新種のベニアカリを贈っていたいただきました。福祉財団ではこのジャガイモをスワンネットときょうざれんを通じて、全国の施設に贈っています。

日本でキタアカリの生産・販売をはじめたのは、玉手さんが最初。このジャガイモは甘くておいしいと評判が立ち、最近では贈答用にも取引されるようになりました。玉手さんはキタアカリを消費者に直接輸送して売る、直販をしています。

果たせなかった約束 その気持ちを形に

玉手さんはヤマト運輸と財団の創設者である小倉昌男前理事長に、格別の思いがあります。小倉前理事長が国の独占だった郵便事業に参入し、日本の流通業に大改革を起こしていった姿に、自身と同じ「独立の志士」の気概を感じたのです。

「日経新聞で連載されていた『私の履歴書』で、小倉さんのことを知りました。国を相手に輸送事

給食の肉じゃがにしました。
ありがとうございます!!



小規模作業所 ほっとサロン
(鳥取県西伯郡)

業を興していった人がいるのを知って、すごい人がいるんだね、と家族で話していたのです」

ある雑誌の取材をきっかけに、玉手さんの気持ちや取り組みは生前の小倉前理事長も知るところとなりました。小倉前理事長は玉手さんに共感し、すぐにサイン入りの自著20冊を贈ったそうです。

「本が届いたときは本当に感動しました。ぜひお目にかかりたいと日程の調整などもしたのですが、お加減が悪くなったと連絡があつてあつという間に……」面会の約束をしつつも果たすことのないまま、訃報を受け取った玉手さん。そのとき小倉前理事長が私財を投げ打って福祉財団を創設したことを思い出したそうです。

「障がいのある人たちのために財団を設立する。それはお金があれば、誰でもできるという

ものではありません。小倉さんの遺志を会社ぐるみで引き継ぎ、今でも応援しているヤマト運輸という会社も素晴らしいと思いました。うちのジャガイモを、財団に寄贈すれば、喜んで受け取ってくれる人たちがいます。私たち販売側は、どこに商品が必要としてくれる人がいるのかわかりません。必要としてくれる人に届けてもらえることは、私にとっても有り難いことです」

日本の農家の常識に一人果敢に立ち向かい、消費者という最も強い味方を増やすことでここまで来たという玉手さん。毎年キタアカリだけではなく、暖かい気持ちも届けてくれる北の贈り主は、消費者の声に応えることで、産業界に大きな改革をもたらした小倉前理事長と通ずる、熱く強い気持ちを秘めた改革者です。

箱を開けて
みんなでワイワイ！
そのまま蒸かして食べました。
おいしかったです！



福祉共同作業所いろえんびつ
(愛媛県松山市)



財団の事業の説明を受ける視察団

次は私が就職します！ ヤマト自立センターで 卒業生、ぞくぞく

ヤオコー上福岡
店様で働く福井
生さんフォーラムパッケージ様で作業
中の東坂由紀さんユニクロ三芳店
様で品出し作業
の加藤裕樹さん

ヤマト自立センター(埼玉・新座)が、昨年1年間で23名の中から12名を就職で企業に送り出しました。「世の中の動きが障がい者雇用に積極的になっているので、障がい者にとっては就労のチャンスですね」と責任者の道祖土さん。

「今後は、障がい者の就労訓練施設として工賃をあげ、手探りでやっている、就労後のフォロー体制を体系的に整えたい」と次への意気込みを語っています。

仕事が休みの日には、給与明細を持って報告に来る卒業生、税金を納め母親を扶養するようになった卒業生・・・「働くことがうれしい」という気持ち、仲間の利用者にも伝わって、「次は私が就職!!」という雰囲気であふれている自立センターです。

スワンは私たちの モデルです 中国・新疆ウイグル地区から 視察団

中国・新疆ウイグル自治区政府の副主席をはじめ、障害者連合会関係者7人が、昨年12月26日、スワンカフェ & ベーカリー赤坂店(東京)を訪れました。

今回の訪日は、日本の国立身体障害者リハビリテーションセンター、財団の支援事業など、日本の福祉の現状視察が目的です。

賈帕爾副主席は「財団の支援事業、スワンの事業は私たちがこれから障害者事業を行っていくモデルケースになり

ます。新疆に戻って障害者事業がさらによくなるようにしたい」と話されました。



みんなでお祝い 花田春兆さんの出版記念会

花田春兆さんの44年ぶりの句集「喜憂刻々」の発刊記念懇親会が、東京・銀座のスワンカフェで、台風20号が近づく昨年10月27日に催されました。

この日は、スワンカフェのアートスペースで行われていた花田春兆さんの陶俳画展の最終日でもあり、春兆さんの広い交友関係を表すように、共に障がい者運動を進めた旧厚生省厚生課長をはじめ東京大学客員教授、文芸評論家など、多くの方が駆けつけられました。会では、春兆さんが国際障害者年に作詞され、その後のテーマソングとなった「街へ行こうよ」を参加者で合唱するなど、嵐を吹き飛ばすほどの熱気あふれる懇親会でした。



陶俳画展の始まる10月22日、82歳の誕生日を迎えた花田春兆さん

地中海の光の中へ

開催期間▶2008年3月15日(土)～5月25日(日)
休館日▶月曜日(ただし、4月28日、5月5日は開館)、
5月7日(水)
開催場所▶川村記念美術館(千葉県佐倉市)
●JR総武線「佐倉駅」から送迎バス
20分
●京成本線「京成佐倉駅」から送迎
バス30分
開館時間▶午前9時30分～午後5時30分(入館
は午後5時まで)

入館料▶

	一般	大学生 65歳以上	小学生・中学生 高校生
当日	1,500円	1,300円	500円

○心身障がい者とその介護者1名は
割引料金(1,300円)となります。

問い合わせ先▶

■同美術館 0120-498-130
■東京新聞ホームページ <http://www.tokyo-np.co.jp/>

主催▶

■川村記念美術館(大日本インキ
化学工業株式会社)、東京新聞
大日本インキ化学工業株式会
社は2008年4月1日より「DIC
株式会社」に社名変更いたし
ます

巡回情報▶

■2008年5月31日(土)～7月27日
(日)神奈川県立美術館

ピエール・ボナール「テーブルの片隅」
1935年頃、油彩・カンヴァス、ジョルジュ・
ボンビドウ・センター、国立近代美術館、
パリ

Information of the Art

マティスと ボナール展



ピエール・ボナール「花咲くアーモンドの木」
1946-47年、油彩・カンヴァス、ジョルジュ・ボンビドーセ
ンター、国立近代美術館、パリ

アンリ・マティス(1869～1954)とピエール・ボナール(1867～1947)。同時代を生きたこの二人の偉大な画家の芸術形成とその展開、そして特に絵画への愛を共有した彼らの交友を紹介する展覧会です。国内外の代表的油彩・水彩・素描などが一堂に展覧されます。この「マティスとボナール展」の美術品取り扱い扱いをヤマトロジスティクスが協力しています。



©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2007 ©photo CNAC/MNAM Dist.RMN/amanaimages



沖縄支部
古謝盛裕新事務長が就任
しました。
よろしくお願いします。

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 (ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065
東京支部	名古屋健史	TEL.03-5564-3705
関東支部	森田雅哉	TEL.045-508-6106
北信越支部	青木浩昭	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	内山 修	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	古謝盛裕	TEL.098-840-3605

賛助会員 個人52,540人 法人ヤマトグループ44社(2007年3月31日現在)



体にやさしい「ハッピー クリスマスケーキ」に反響!

卵・乳製品を使わない「ハッピークリスマスケーキ」に予想を上回る反響をいただき、昨年のクリスマスケーキは、71,122個を販売することができました。ご協力ありがとうございました。また、全国の施設・作業所では5,263個を販売していただき、今年から、クリスマスケーキと同じように一般のケーキの販売も開始します。おいしいケーキを囲むみなさんの笑顔がみえるように…スワンの願いです。

▶卵・乳製品不使用、カロリー控えめのハッピーファミリー
ハッピーベースボール、ハッピードールなど新商品も続々登場します。



アメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。

